

■北海学園大が北海道大下し3連勝。道学生選手権第6節

第51回北海道学生アメリカンフットボール選手権第6節は9月28日、札幌市円山競技場で1部の2試合を行い、帯広畜産大が34－14で東京農業大に勝ち、北海学園大は13－7で北海道大を下した。帯広畜産大は1勝1分け2敗、東京農業大は4敗、北海学園大は3勝、北海道大は2勝1敗となった。第7節は10月5日、札幌市円山競技場で1部の釧路公立大－北海道大（午前10時開始）、北海学園大－室蘭工業大（午後1時開始）を行う。

前年5位の東京農業大と同6位の帯広畜産大は、帯広畜産大がWR桂田陽向（4年）の3TDキャッチなどで逆転勝ちした。帯広畜産大は第1Q10分にRB安澤十野（3年）の5ヤードランで先制。東京農業大に一時逆転を許すが、第3Q4分にRB安澤の2本目のTDランで14－14の同点に追いつくと、同10分にはQB穂山偉月（2年）からWR桂田への24ヤードパスで21－14と勝ち越し。第4Qにも5分と8分にQB穂山からWR桂田へ28ヤード、39ヤードの連続TDパスが決まり、突き放した。

東京農業大は、7点を追う第2Q開始直後にRB若井純太（3年）の47ヤードランと、同10分のDB嶋津慶二（3年）の22ヤードインターセプトリターンTDで14－7と逆転したが、後半は帯広畜産大のラン攻撃に試合の主導権を握られ、再逆転を許した。

帯広畜産大の鏡順之助監督は「ハーフタイムで気持ちを仕切り直した。エースレシーバーの桂田にTDを取らせることができ良かった。守備で耐え抜く力が付いた。次も何とかして勝ちたい」と言葉を弾ませた。3TDのWR桂田は「後半、負けている場面でTDを取り、チームのギアを上げられた。QB穂山も自信を付けられたと思う。最終戦もTDを取りたい」と決意した。



2連勝同士の顔合わせとなった北海学園大と北海道大の対戦は、北海学園大が劇的な逆転TDで無敗を守った。北海学園大は0-7の第3Q 11分、QB成田滉佑（4年）の26ヤードランで7-7の同点に追いつくと、第4Q 6分にFG狙いのプレーが崩れ、急きょパス攻撃に切り替えてQB松平悠杜（2年）がエンドゾーンのRB加藤真之助（4年）へ20ヤードTDパスを決めて勝ち越した。



北海道大は第3Q 9分、RB下島圭太郎（3年）の4ヤードランで先制したが、その後は要所でパスインターセプトされるなどで追加点を奪えなかった。

北海学園大の高木幸樹HCは「勝ち越しTDはQBがよく投げた。今日は守備が頑張った」と、接戦を制した選手たちをたたえた。決勝パスを投じたQB松平は「パスはとっさのプレーだった。加藤さんがエンドゾーンで空いているのが見えたので、頼みますという感じで浮かせたパスを投げた」と殊勲のシーンを振り返った。

（学連広報委員 塚田博）